

教科名	国 語		科目名	現 代 文 A	
科目の目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
履修学年	第 3 学 年		学科・コース	全 科	
単位数	2 単 位		授業形態	一 斉	
教科書	現代文A改訂版（大修館書店）		副教材等	桐原書店 パスポート国語必携	
1 学習の目標					
① 文章を読む楽しさを味わい、読書に親しむ。 ② 国語を尊重し、その向上を図る姿勢を身に付ける。 ③ 目的に応じて、まとまりのある近代以降の文章を読み、自分の考えを深め、発展させる態度・能力を身に付ける。 ④ 言語文化や言葉の特徴などに関して理解を深め、広く知識を身に付ける。					
2 学習内容と進め方					
① 主体的な読書・言語活動から、自他に関する理解と表現力を高めていく。 ② 他者との交流や意見交換を通して自己を振り返り、社会の中で自立した人間の育成を目指す。 ③ 言語文化を正しく継承し、国語における基礎力の充実と、更なる総合力の発展を期す。					
3 学習の留意点					
① 「読み取る能力」を基礎とし、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」をも関連づけて学ぶ。 ② 言語生活に役立つ知識・教養を見出し、自ら思考を活性化する姿勢を学ぶ。 ③ 慣用句等、言語文化の形成の一端を担ってきた表現に触れ、その役割や使い方を学ぶ。					
4 評価の方法					
① 毎回の授業における取り組みを評価する。 ② 提出物や確認テストで、「関心・意欲・態度」「知識・理解」の度合いを評価する。 ③ 定期考査や提出作品などにおいて、学習の定着度を評価する。					
5 授業計画					
月	単 元	学 習 内 容	評 価 の 観 点	考 査 等	
4	「きっと叶いますよ」 小川洋子	「将来何をしたいか」「どのような人間になりたいか」という問いについて、自分に向けた問いとして考える。	【関】【読】他者の経験から生まれた意見や感想を読み、それをきっかけに自分の考えを創り出している。 【書】【知】随想的な文章の内容や表現の特色を学び、他の文章にも関心と興味を持っている。	小テスト この単元を自己評価してみよう A B C	
5	「和の思想、間の文化」 長谷川耀	国際化社会を生きるために、自国や外国の文化、関係を理解する。文化間の差異や重なりについて書かれた文章を読み、考えを深める。	【関】自国の文化を理解し、他国の文化を尊重する態度を培っている。 【読】【書】対照的・対比的な論述の仕方に着目し、筆者の主張を正確に読み取っている。	この単元を自己評価してみよう A B C	
6	「山月記」 中島敦	自分の生きる時代と異なる時代に書かれた文章を読み、自らのもの見方や考え方を広げる。読みを深めるために背景や、時代状況に注目し、読書の幅を広げる。	【関】【読】人物、情景、心情などの描写に注目し、その特色を的確にとらえている。 【書】【知】作品の背景や時代状況にも注目して、小説を読み味わっている。	小テスト この単元を自己評価してみよう A B C	
7	「情報の力関係」 佐藤雅彦	高度情報化社会の中で生きるために、他者や社会の情報を通じて自らの思考を深め、物事に対する見方を広げる。	【関】関連する情報を的確に収集している。 【話】【書】客観的なデータに基づき意見をまとめている。 【知】漢字・文体・表現等に誤りがない。原稿用紙を正しく使える。	期末考査 作文 意見文	
8	■社会生活と文章 意見文の書き方 誤りやすい表現	自らの問題意識を絞り込んだテーマを設定し、自分の意見を正しい表現で叙述する力を養う。		この単元を自己評価してみよう A B C	

9	「排球そして千利休」 川上弘美	日常使っている何気ないことばが文化と深く関わっていることを知り、言語文化への理解を深め、ことばとその使い方について考える。	【関】【読】ことばの本質や生活の中に表れるその特色について理解を深めている。 【書】【知】ことばと文化の関係を学び、自らの言語生活を見つめ直している。	この単元を自己評価してみよう A B C 中間考査
10	「青が消える」 村上春樹	同世代を生きる作家の作品から、描かれている出来事や登場人物の心の機微などを自分の経験と照らし合わせながら読み味わう。	【関】【読】【話】作品の構成、登場人物の心情、人物像などをとらえている。 【書】【知】作品からどんなことが読み取れるか考察している。作者について理解している。	この単元を自己評価してみよう A B C
11	「夢を建てる人々」 林望	「社会で生きる」「働く」という問いを自分なりに探し、他者の労働観を知るとともに、自らの労働観をはぐくむ。	【関】【読】他者の人生や体験から自分の生き方の指針を探っている。 【話】【書】具体例と筆者の主張の関わりを読み取っている。	この単元を自己評価してみよう A B C
12	「小諸なる古城のほとり」 島崎藤村 「小景異情」 室生犀星	明治時代の西欧化の波に乗った「新体詩」の誕生を知り、若者を魅了した島崎藤村、室生犀星の詩を読み心情を豊かにする。	【関】作者について調べ、作者の人生観について理解している。 【読】詩の情景を把握している。 【知】詩の表現技法について理解している。	この単元を自己評価してみよう A B C
1	「こころ」 夏目漱石	明治、大正に活躍した夏目漱石が悩んだ「生と死」・「エゴイズム」・「金銭」・「人間の孤独」・「信頼関係」など、現代にも直結する重要なテーマを読み取り、普遍的なテーマについて考察する。	【関】【読】時代背景や登場人物の心情について理解している。 【話】作者の他作品と読み比べ、共通点・相違点について発表できる。 【知】【書】作者について調べ、表現の特徴について理解している。	期末考査 この単元を自己評価してみよう A B C
1	「その夜のコニャック」 遠藤周作	戦争の時代について書かれた文章に親しみ、作品の背景や時代状況に注目し小説を読み味わう。	【話】作者や作品のテーマについて調べ発表し合う。 【関】【読】人物、情景、心情などの描写に注目し、その特色を的確にとらえている。 【書】【知】作品の背景や時代状況にも注目して、小説を読み味わっている。	この単元を自己評価してみよう A B C 学年末考査
	通年、折に触れて、慣用句や四字熟語、手紙・作文・小論文の書き方等について学習する。	語彙を増やすとともに、論理的で、豊かな表現力を養う。	【関】身の回りで見聞きしたことのある表現等について調べる。 【話】【書】学んだ表現を的確に使って、短文等を作ることができる。 【読】様々な語句・表現について自ら調査・聞き取りをし、表現力を豊かにしている。 【知】独特のリズムや言い回しを把握している。	小テスト 短文、作文 小論文 新聞投稿

【関】は「関心・意欲・態度」、【話】は「話す・聞く能力」、【書】は「書く能力」、【読】は「読む能力」、【知】は「知識・理解」をあらわす。